

事業区分	文化芸術事業		育成創造事業				
事業名	とつとりの芸術宅配便事業		助成	文化庁			
目的・内容	<p>年間を通じて、県内の小・中学校、盲・聾・養護学校、公民館等に県内の文化活動者を講師として派遣し、ワークショップ、コンサート等を実施する。多感な時期の子ども達に文化芸術活動を体験させることで、子どもの健全な育成と将来の文化芸術活動の担い手、観客となる人々の育成、或いは心の健康の向上を図る。</p> <p>【使命】文化芸術活動の発信と交流、文化人口の拡大とレベルアップ、多彩な人材育成とキャリア開発、子どもの文化芸術活動の推進</p> <p>【事業計画の柱】学校との連携事業をはじめとする子どもや青少年のための文化芸術活動の充実、地域の文化活動者との協働による自主企画の事業推進、人材育成の為の機会の提供</p>						
開催日時	平成19年6月～平成20年2月(85回実施)						
会場	県内小・中学校、特別支援学校、公民館等						
入場料・参加費	無料						
集客状況	総体験者数	10,608名	設定席数	—	集客率	—	
事業費状況	予算額	収入	0円	支出	6,325,000円	収支比率	0%
	決算額	収入	0円	支出	4,897,101円	収支比率	0%
体験者アンケート(主なもの)	<p>[学校の先生]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本物の楽器を運んでいただき、それぞれの楽器の紹介演奏で特徴を教えてください良かったです。生の演奏は、おっしゃっていたように、耳だけでなく、目、身体全体で聴け、とても楽しかったです。</li> <li>・近くで楽器の音色を聞くことができとても良かった。子ども達になじみのある曲が多く、子ども達も喜んでいました。</li> <li>・生の演奏は良いですね。ハーブの方のドレスにも、子ども達は目も心も引かれていました。</li> </ul> <p>[児童・生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーケストラのみなさんの演奏がすごいです。また来てくれるといいなと思います。</li> <li>・声を最後伸ばしていた時も10秒くらい高い声で伸ばしていたのでびっくりしました。そのあとは、知っている歌をうたっていただきました。その時に、本当の人が歌っているみたいでした。すごく楽しくしてもらいました。</li> <li>・パーカッションでスチックの正しい持ち方とか教えてもらった。基礎練習の正しい仕方とかも習ったから、学校に戻っても、今日教えてもらったことを生かして3年間頑張りたいと思います。</li> </ul>						
1次評価(内部)	<p>[成果]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①全申込数(79教育施設等)に対し、新規申込数(21教育施設等)が26.5%を占め、目標の10%を大きく上回った。</li> <li>②子どもたちの事業体験人数が約10,600人と過去最多となり(昨年度は約8,900人)、文化芸術体験者の底辺の拡大の一助となった。</li> <li>③事業ごとの報告書の中で一定の視点(芸術性、伝達性、こどもの質問・疑問に対する講師の対応について、環境について、学校の先生の関わり方について)に立った評価を行うことで、次年度の対策へと繋がる問題点・課題点が浮き彫りになった。</li> </ol> <p>[課題]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①中学校はほぼ全域(H19年度未実施率/84%)、小学校については中・西部地区の申込み(H19年度未実施率/東部17%、中部33%、西部40%)が少ない。</li> <li>②ジャンルによって申込数に差異が生じる。HPでの紹介等重点的にPRしていく必要がある。</li> <li>③講師のスキルアップを図るための研修会を3月に開催したが、参加者が非常に少なかった。</li> </ol>						
財団評議員の評価	<p>[成果]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①芸術宅配便事業は、将来への投資という点で継続することに意味があると感じる。</li> <li>②次年度も継続して欲しい事業である。</li> <li>③教職員も生の芸術文化活動に触れることのできるこのような活動は、大変意義のあることであり、文化振興財団の趣旨からしても財団の大きな活動の一つとしての位置づけがなされるべき活動である。</li> </ol> <p>[課題]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①受託団体の質の向上や、子どもへの伝え方の向上などを財団がどうバックアップしていくのか、宅配便をきっかけに興味を持った子どもたちの受け皿の紹介など、次につながる仕組みを考え始める時期に来ているのではないか。</li> <li>②外部にもどんどんPRしていき、外部からもこの事業に対して声援を送っていただくようになればと思う。</li> </ol>						
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度以降も継続して実施し、より一層中部の未来中心や西部駐在との連携を密にして、財団全体として取り組んでいくことを検討する。</li> <li>・講師のスキルアップを図るための研修会を講師の参加しやすい時期、内容とするよう、部門長に聞き取りを行ったうえでの研修会の開催を検討する。</li> <li>・毎年の申し込みでも良いことなど、受け付け方法を明記し、募集要項の工夫を検討する。</li> <li>・HP上でジャンルの特集を組む等の工夫を検討する。</li> <li>・中学校の参加率をどう高めるか、実態のリサーチを検討する。</li> </ul>						